



四小だより

令和7年 2月 28日
府中市立府中第四小学校
校長 安原 一朗
No.13

年度替わりは自立（子離れ）のチャンスです

校長 安原 一朗

『子育て四訓』というのがあります。以下です。

乳児はしっかり肌を離すな
幼児は肌を離せ、手を離すな
少年は手を離せ、目を離すな
青年は目を離せ、心を離すな

子供が小さく手がかかるうちは、親の生活は、どうしても、ある程度子供中心になってしまいます。いったんそうなってしまうと、気持ちを切り替えて子供と距離を置くのは、なかなか難しいことかもしれません。

この『子育て四訓』は、子供を自立させるための大切な姿勢だと思います。でも、それ以上に思うのは、親が子供から離れるための準備のためということです。子供は、近い将来に必ず親から離れていくものです。上手に自立に向かってステップを登らせていきたいものですね。

小学校に入学すると、親と離れている時間が長くなり、その分、自分で考え、自分で行動を決めることが増えてきます。親は、我が子がもう「何もできない子供」ではないのだ、と気持ちを切り替えていく必要があります。「先回り」するのはやめて、持ち物の用意や部屋の片付けなど、自分のことは自分でやらせるのが基本です。子供が何も言っていないのに、子供がやろうとしていること、してもらいたいと思っていることを先回りしてやってあげるのはやめましょう。

しかし、子供はまだ6、7歳。自力で身の回りのことや新しいことにチャレンジしても、まだ失敗することが多いかもしれません。それでも頭ごなしに否定せず、子供なりの考え方や意見を聞いてあげてください。お子さんによっては、「次はどうしたらいい？」などといちいち聞いてくるかもしれません。そんなときも、親の意見を伝える前に「〇〇は、どう思うのかな？」「あなたはどうしたいの？」と、子供の意見や希望を聞くようにしましょう。子供に選択させると自立心が育っていきます。やってみてください。

高学年になって思春期にさしかかる時期は、子供から大人に変化するタイミングです。子供自身には戸惑いも多く、ナイーブな時期です。友達との関係性が強まり、反抗期も重なって、親には隠し事が増えてくるかもしれません。このタイミングで子供と適度な距離を取ることも大事なことになるでしょう。辛いですがそれが普通なんだと思ってみてください。

いよいよ今年度のまとめとなる3月を迎えます。本日2月28日の3・4校時に体育館で、『6年生を送る会』を行いました。3・4・5年生の代表委員の皆さんが会を計画・運営してくれました。どの学年の出し物も楽しく温かくすてきな内容で、和やかな会となりました。6年生の笑顔が輝いていて、見ていてうれしく幸せな気持ちになりました。卒業までの時間を大切に日々を過ごして行ってほしいです。